

地域の歩み一冊に

大東
下内野自治会
続20年、記念誌発刊

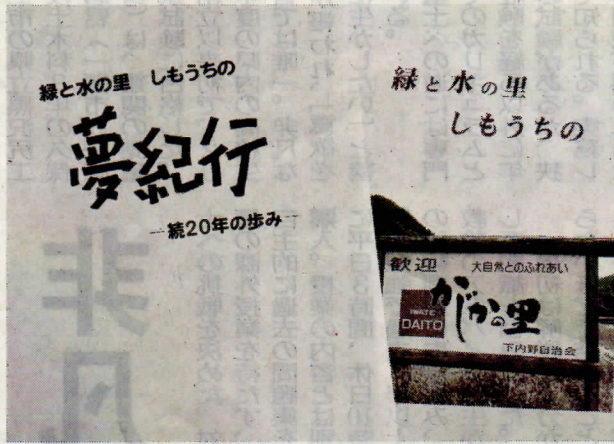
一関市大東町大原の下内野自治会(勝部欣一自治会長)は、20年間の地域づくりの歩みをまとめた記念誌「緑と水の里 しまうちの夢紀行」を20年の歩み」を発売した。17日には下内野ふれあい会館で発刊祝賀会を開き、地域住民45人が記念誌完成を祝い、さらなる地域の発展を期した。記念誌はA4判82ページ、150部を作製し、各世帯に配布した。

から20年が経過したことから、2015年3月に編集委員会を組織。NP法人地域緑化センターの緑のふるさと協力隊として同地区に着任した西田彩音さんが編集長を務め、昨秋から本格的な編集作業を進め、今年6月に完成した。

1999年に策定した地域づくりマスタープラン「下内野4WD計画」に基づき取り組みや、同地区を取り上げた新聞記事、郷土芸能、伝統行事などを写真付きで収録した。地元を離れた人にも懐かしんでもらおうと、全42世帯の写真も入れた。

同自治会は地域の清流化を目指す「かじかの里復活事業」などを継続して実施し、8月には恒例の石磨き大会を予定している。勝部自治会長は「計画当初はどのようなか分からなかった事業も、この20年ではほとんど実現できた。最近は各地で地域づくり計画が作られているが、下内野では20年以上前から取り組み、成果となってきた」と語っていた。

記念誌「緑と水の里 しまうちの夢紀行 続20年の歩み」



記念誌の発刊を祝う下内野地区の住民

いる。勝部自治会長は「計画当初はどのようなか分から